

中村茜

パフォーミングアーツ・プロデューサー

1979年東京生まれ。日本大学芸術学部在籍中より舞台芸術に関わる。現代演劇、コンテンポラリーダンスのアーティストやカンパニーの国内外の活動のプロデュース。サイトスペシフィックなフェスティバルや、領域横断的な人材育成事業などを手掛ける。

国内外での代表的な制作活動実績：

2004年～2008年STスポット横浜プログラムディレクターを経て、2006年、株式会社プリコグを立ち上げ、08年より同社代表取締役。04年よりチェルフィッチュ・岡田利規、ニブロールおよびミクニヤナイハラプロジェクト・矢内原美邦、吾妻橋ダンスクロッシング、康本雅子、飴屋法水、神里雄大、篠田千明、など日本の現代演劇、コンテンポラリーダンスを牽引するアーティスト・カンパニーの、国内外の活動をプロデュース。海外ツアーや共同制作のプロデュース実績は30カ国70都市におよび、2000年代後半より日本現代演劇シーンの国際展開を大いに促進させている。

2009年10月、金森香（ファッション・ブランド「シアタープロダクツ」プロデューサー）と藤原徹平（建築家）と共にNPO法人ドリフターズ・インターナショナルを設立。2011年ベルリンHAU劇場との共同キュレーションで「世界の小劇場 ベルリン編」をプロデュース、2012年音楽と都市を繋ぐ新たなプロジェクトMusicity Tokyo（ブリティッシュ・カウンシル主催）のディレクターを務め、2012年KAAT／神奈川芸術劇場の舞台芸術フェスティバル・KAFE9をプロデュースするなど国際的なプログラムを企画制作。2016年から3カ年かけて国際交流基金アジアセンターと協働で「プラータナー：憑依のポートレート」をバンコクにてプロデュース、その後同作はポンピドゥー・センター（パリ）や東京芸術劇場、シャウビューネ劇場（ベルリン）へも展開し、2020年読売演劇大賞にもノミネートされた。

2019年は、日本財団主催の障害・性・世代・言語・国籍などを超えることを目指す「超ダイバーシティ芸術祭」True Colors Festivalのアソシエイトディレクター兼副事務局長を担うなど、インクルーシブな視点でのプロジェクトにも取り組み活動の幅を広げている。

人材育成事業：

2010～2013年ドリフターズ・サマースクールを横浜を拠点に開催、2011～15年まで日本大学芸術学部非常勤講師。2020年渋谷スクランブルスクエア15階の会員施設SHIBUYA QWSにて、クリエイターやビジネスパーソン、アーティストなど領域横断的なプロジェクトを企画・立案・発信するためのスクール「Re／Creation」の共同ディレクターを務める。2019年より継続してワークショップデザイナー臼井隆志とともに観劇を教育的体験に応用するための鑑賞

プログラム「コネリング・スタディー」の開発・検証に携わっている。

サイトスペシフィックな取り組みやスペース運営：

無人島プロダクションと吾妻橋ダンスクロッシングとの共同プロデュースにて東京の下町での新たな価値を生み出す社交場SNAC（2010~2013）や、2012年5月より大分／別府にクリエイティブスペースPUNTO PRECOGにて別府の中心市街地に新規事業が生まれる発信地を開設。また、東京／新宿区山吹町の印刷工場跡地にリハーサルスタジオを開設するなど、スペースを運営を手掛ける。

その他、地域に根ざした活動にも取り組み、2012年、東京都との協働で、100名のチアリーダー等を迎え隅田川を舞台にした「すみだがわパレード」を開催。2012~14まで国東半島芸術祭（大分県・国東市・豊後高田市共同主催）のパフォーマンスプログラム・ディレクターを務め、飴屋法水×朝吹真理子の代表作となった12時間のバスツアー作品「いりくちでくち」等をプロデュース。また、瀬戸内芸術祭2016犬島パフォーミングアーツプログラムにて、内橋和久とインドネシアの音楽ユニットSenyawaとの共同企画「Inuto Imago」等を制作。

2016~18年まで、アジア・カルチュラル・カウンシルのグラントを受けたことをきっかけにバンコクに拠点を移し、アジアの舞台芸術をリサーチを始める。舞台制作者オープンネットワークON-PAM発起人兼理事。

株式会社precog <http://precog-jp.net>

PUNTO PRECOG <http://puntoprecog.jp/>

山吹ファクトリー <https://www.yamabukifactory.tokyo/>

一般社団法人ドリフターズ・インターナショナル <http://drifters-intl.org/>

ON-PAM（舞台制作者オープンネットワーク） <http://www.onpam.net/>

寄稿実績

・2019年6月29日 発行『憑依のバンコク オレンジブック』（白水社）

<https://www.hakusuisha.co.jp/book/b456657.html>

・2011年12月15日 発行『viewpoint セゾン文化財団ニュースレター 第57号』（公共財団法人セゾン文化財団）

<http://www.saison.or.jp/viewpoint/pdf/11-12/viewpoint-no.57.pdf>

・2011年4月9日 発行『これからのアートマネジメント “ソーシャル・シェア” への道』（フィルムアート社）

http://www.filmart.co.jp/cat138/post_146.php

インタビュー掲載

・2020年6月26日公開：ACCカルチュラル・カンパセーションズ～シリーズ：ニューノーマルにおけるアートを考える～ 第一回：コロナ禍と演劇 岩城京子×中村茜×山本卓卓

<https://youtu.be/tM9wykbvNGg>

・2020年6月17日 公開：#008 病院、学校、離島に海外...ネット演劇の可能性 / 中村茜 (MOTION GALLERY CROSSING)

<https://propo.fm/motiongallerycrossing/8>

・2020年6月10日 公開：#007 舞台美術が届かない?!波乱のニューヨーク公演 / 中村茜 (MOTION GALLERY CROSSING)

<https://propo.fm/motiongallerycrossing/7>

・2020年3月27日 発行『国際演劇年鑑2020』（公益社団法人 国際演劇協会日本センター）

<https://iti-japan.or.jp/info/6468/>

・2019年10月8日 公開：『プラータナー：憑依のポートレート』から考える、西洋文化に忖度しないアティチュード (Bound Baw)

<http://boundbaw.com/inter-scope/articles/21>

・2019年11月18日 公開：動員すればそれで良い？芸術の消費に対する『プラータナー』の挑戦 (CINRA.NET)

<https://www.cinra.net/interview/201911-pratthana>

・2019年7月5日 公開：ジャーナラン・パンタチャート—— バンコク同時代演劇界で最もアクティブで重要な演劇人のひとり (国際交流基金アジアセンター)

<https://ifac.jp/culture/features/f-ah-tpam2019-jarunun-phantachat/>

・2019年6月5日 公開：新しい演劇体験の挑戦、はじめます ——劇場を「わからないを楽しむ場」にする4時間の実験 (precog公式note)

<https://note.com/precog/n/n81e88bb8ee47>

・2016年6月27日 公開：自分の感性を疑うな。未経験で世界とアーティストを繋げた中村茜 (CINRA.NET)

<https://www.cinra.net/interview/201606-precog>

・2013年6月26日 公開：震災に背中を押されて始まったこと ON-PAM (舞台製作者オープンネットワーク) の立ち上げと大分県別府での活動 (ネットTAM)

<https://www.nettam.jp/column/103/>

・2012年8月16日 公開：金森香×中村茜「ドリフターズ・サマースクールの魅力とは？」 (ドリフターズ・サマースクール公式サイト)

<https://drif-summer.info/interview0830>

・2012年8月22日 公開：アートフェスティバル『KAFE 9』特集～vol.1 (中九州・横浜情報サイト・パワナビ)

<https://www.pawanavi.com/cms/yokohama/kafe9%E3%82%AB%E3%83%95%E3%82%A7%E3%83%8A%E3%82%A4%E3%83%B3-vol-1/>